

# 元気なまちかど

## No.1 手作り凧を正月の空に

なつかしのふれあい体験教室「凧作り」が11月27日、甲南ふれあいの館で行われ、親子10人が参加しました。参加者は、竹ひごと和紙、凧糸、でんぷんのりなど昔と同じ材料で凧作りに挑戦しました。ボランティアとして活動されている「民具友の会」の皆さんから丁寧な作り方を教わりながら、富士山や鶴、亀など新年らしい絵を凧に描き、正月の空に舞う様子を思い浮かべながら仕上げました。



▲出来上がった手作り凧を披露する子どもたち

同館では、民具を通じて昔の人々の暮らしを知ってもらおうと、「しめ縄作り」や「ぞうり作り」などの体験教室が年間を通して開催されています。

## No.2 地域を想う熱い心と団結を

ミュージカル「天保義民～甲賀の農民たちの熱い思い 共に闘う仲間たち～」

認定NPO法人「甲賀文化輝き」による創作ミュージカルが12月3日、4日の2日間、忍の里プララで上演されました。上演された作品は、江戸末期に甲賀と野洲、栗太の旧3郡から農民約4万人が立ち上がり、検地を10万日延期するという証文を勝ちとった天保一揆を題材にしています。劇中では、未来の子どもたちが、犠牲を払ってでも団結して正義を貫いた農民たちの話を聞いて、未来で貴重になった農地を守ろうとする姿が描かれています。10万日後は、2116年にあたります。日延べ100年前という節目に甲賀の人々の地域を想う熱い心と団結を改めて考える作品となっていました。



▲10万日の日延べを勝ちとった迫真の演技

## No.3 歌を通して伝えるおもい

あいこうかうたプロジェクト2016

「であい・こうか八景」と「大切な人への思い」のテーマに短歌を募集した「あいこうかうたプロジェクト2016」の表彰式が12月3日、碧水ホールで開催されました。市内外から寄せられた3千5百首を超える応募の中から入賞作品30首が発表されました。小中学生の作品の中には、大人顔負けの句がたくさんあり、会場からは感嘆の声があがっていました。

- 各部門の最優秀賞受賞者は次の皆さんです。なお、全ての入賞作品は市ホームページに掲載しています。
- 一般の部 浦山 増二 (栗東市)  
朝の陽に田んぼアートの忍者映え緩らかにゆく高原鉄道
  - 中学生の部 本橋 翔内 (土山中2年)  
田村麻呂偉大な力で厄払い川のせせらぎ歴史の歌声
  - 小学生の部 森地 結唯 (綾野小6年)  
晩ご飯信楽焼きのお茶わんは私が焼いた初めての品



▲会場のスクリーンに映して詠まれる入賞作品



▲イルミネーションの前で太鼓の演奏

## No.4 1万5千個の温かい光に包まれて

しがらぎイルミネーション2016

恒例となった「しがらぎイルミネーション」が、信楽駅や通り沿いの樹木、信楽地域市民センターの駐車場など約1万5千個の温かい電球の光で信楽のまちを包んでいます。これは、信楽高原鉄道の利用促進と信楽駅前の活性化を図るため、しがらぎイルミネーション実行委員会が中心となり取り組まれたもので、今回で17回目となります。12月10日には、「しがらぎ冬まつり2016」が開催され、夏の縁日さながらのイベントで寒さを吹き飛ばしていました。しがらぎイルミネーションは、1月9日まで、日没から0時の間点灯しています。ぜひお出かけください。

## であいこうか

DEAI KOKA

畳の魅力を伝えたい

畳工 神田泰男さん

厚生労働大臣が卓越した技能者を表彰する「現代の名工」に今年度選ばれた畳工の神田さんにお話を伺いました。

## INTERVIEW

▶畳の仕事は、どのような修業で習得されましたか？

高校卒業後、会社勤務を経て、22歳で家業の畳店を継ぎました。職人仕事ですから、教えてもらうというよりは、現場で父親や職人仲間の作業を見て、見よう見まねで技術を習得しました。仕事の前後にも毎日1人仕事場で練習を重ね、どうしたら他の職人のように速く正確にできるか、日々考えながら技術を磨いていました。

▶伝えたい畳の魅力は？

畳は、日本の気候・風土にあります。湿度が高い夏には畳が湿気を吸収し、乾燥する冬には畳の湿気がゆっくりと蒸発して空気を潤します。また、い草はよい香りを発しながら空気を浄化し室内を快適にします。最近では、天然い草を使用した畳の部屋で勉強すると、気持ちが落ち着き、集中力が増し、学習効果が上がることが大学の先生の研究で実証されました。

▶畳職人としてこれからの活動は？

職人は一生勉強で終わりはありません。これからは、厚生労働省から認定された「ものづくりマイスター」として、県内を回って子どもたちに畳の魅力を伝えていきます。畳の仕事は、段取り八分といって準備が大切です。道具の手入れや整理を自分でを行い、道具・材料を常に把握しておくことが畳職人の心構えでもあります。これは、子どもたちの学校や日々の生活にも共通する心構えとして畳の魅力とともに子どもたちに伝えていきたいです。



▲畳の縁をとる作業